

立石義雄新会頭 就任記者会見〔要旨〕

このたび、村田純一会頭の後任として、会頭の任を担うこととなった。身に余る光栄であります。この重責をしっかりと受け止め、微力ながら、会員の皆さんの協力を得て、情熱を傾けて精一杯努めてまいりたい。

日本文化を代表する京都に対する国内外からの関心が、より一層高まっていく中で、「歴史ある京都」の更なる発展が日本全体を牽引していくものと考えている。

そのために京都商工会議所としては、前会頭が推進してきた「美感都市」構想を継承・発展させることを基本に置き、2007年度の重点テーマである、①産学公連携事業の促進、②京都ブランド事業の推進、③中小企業の振興の推進に取り組んでいく。

先程の総会で、村田前会頭は名誉会頭に推挙され、就任いただくことになった。引き続きご指導いただくと共に、副会頭の皆さんのご意見や事務局と話し合いながら、今後の課題の軽重を見極め、時間軸を見直していきたい。

①中小企業の活性化とこれからの産業界の進路

- 特に、商工会議所会員の約11,000社のうち、94%を占める中小・ベンチャー企業の会員に対して、より開かれた、魅力ある活動に重点をおき、中小企業の振興と活性化を図りたい。
- 京都が世界の中で輝いているのは、「守るべきは守りつつ」、新たな生活様式を創造し、提案する力があるからと考えている。
- 世界から多くの人が京都を訪れる。この都市の吸引力が、新たな融合を促し、新しい産業と生活文化を創造する「知の創造と活用」の好循環を保つ原動力となっている。
- その点、2000年に座長として策定した「京都21世紀産業ビジョン」での経験から、私は21世紀の京都産業モデルは、地域の特性にあったビジネスモデルが代表されと考えている。
- 私は、それを「知恵産業」と呼び、昔の人々の「生き方の知恵」を生かしながら、脱量産の発想のもと、科学と技術、匠の技、デザインなどの知恵を加えて、付加価値を創造する事業に取り組むことではないかと考えている。
- そのための成功の鍵は、モノを作る人、デザインをする人、そしてサービスをする人が直接に「顧客の求めている価値を知ること」「自らの強み（コアコンピタンス）を知ること」。
- 京都には大学・観光・文化・宗教など世界に通用する分野が多い。ぜひ中小・ベンチャー企業の会員に対して、京都であるから出来るこれからの産業界の進路を示し、京都産業の活性化に資するビジョン、マスタープラン、アクションを創り出して、ベクトルを合わせて取り組んでいきたい。

②地域との連携協力

- 京都府、京都市との連携はもとより、京都の産学公の総力を結集し、確かな連携のもと、北部開発、旧市内再生、南部開発、学研都市開発に貢献し、京都府全域で中小・ベンチャー企業の振興と活性化を図りたい。
- 同時に関西との広域連携を強化し、交通体系の整備、新産業の創造、情報ネットワーク、環境対策など地域全体のシナジー効果と魅力作りにも貢献していきたい。
- 私はこれからの企業と府・市民の「地域へのかかわり方」には2つの役割があると思う。一つは納税者として地域政治や行政への知識・関心を持ち、【見守る】企業、府民・市民となる責任。二つは、豊かな地域づくりのための社会貢献や文化活動への【参加】だ。

③会議所の運営

- 会議所の運営に関しては、12部会中心の運営方式をとり、部会が自ら考え、決心して、行動する自律化を目指したい。自律化は会員の創造性を引き出します。すなわち、ボトムアップ型の運営に重点をおきたいと考えている。
- 副会頭にも、それぞれ担当分野の部会活動について積極的にバックアップいただき、会議所の活動を魅力あるものにしていただきたい。
- また、(税制など) 今後に会議所が直面する課題に対しては、新しい委員会の創設を含めて、委員会機能の強化を図って対応していきたい。

ぜひとも、京都の未来産業へのロマンを追求することで、特に、若い人たちがやる気を出してくれることを願い、皆さんとともに人間らしさあふれる元気な京都の実現に貢献していきたい。

最後に、マスコミの皆様のご協力を心よりお願い申し上げて、会頭就任のご挨拶とさせていただきます。

以上